

平成10年3月27日

『試合の前日は、逃げ出したい気持になりました』

## 長野冬季パラリンピック・バイアスロン金メダリスト

### 小林深雪選手 豊島区長を表敬訪問

長野冬季パラリンピック・バイアスロンの視覚障害のクラスで金メダルを獲得した豊島区雑司が谷1丁目在住の小林深雪選手（24）が豊島区役所を訪れ、区長を表敬訪問した。

小林選手は、パラリンピック第2日目の3月6日、バイアスロン女子7.5kmの視覚障害の比較的軽いB2・B3クラスで優勝し、アルペン女子滑降の大日方選手と並び冬季パラリンピックでは日本初の金メダルに輝いた。また、3月8日はクロスカントリースキー・クラシカル女子5kmで11位、10日のフリー女子5kmでは9位と健闘した。

午前9時30分、区役所を訪れた小林選手は、加藤一敏豊島区長から今回のパラリンピックでの活躍を称える賞状を受け取った。

10発中9発を命中させたバイアスロンの射撃の話になると、「日本には射撃の練習をする専用の施設が少ないので、音声だけが出るモデルガンのような機械を借りてきて練習をしていました。バイアスロンに出場する前日、射撃練習で的に当たらなくて逃げ出したい気持になりましたが、当日の朝になってようやく調子が出てきたので、いいところで切り上げ試合に臨みました」と練習での苦労や当日の様子を語った。そして、「限られた練習でも優勝するというのは、やはり才能ですか」という区長の言葉に、「周りの人たちからは野生の勘だねと言われました」と笑顔で答えていた。また、「再来年スイスで開かれる世界大会に向け、トレーニングを続けていきたい」と抱負を語った。

小林選手のパラリンピックでの活躍は、区内でも大きな反響を呼んだ。区広報をみて感銘を受けた区民から、小林選手宛ての手紙が区役所に届いたり、区民からの問い合わせも相次いだ。

小林さんは、長野県小谷(はり)村出身。アルペンスキーは、小学校に入る前から続けていたが、クロスカントリースキーを本格的に始めたのは、2年前から。現在は、都内の特別養護老人ホームで、リハビリ関係の仕事に就いている。「やりがいがあります」と、仕事にもスポーツにも、意欲的に取り組む努力家だ。

お問い合わせ：広報課

平成10年1月27日

## 第7回長野パラリンピック・豊島区在住のクロスカントリー代表選手

### 小林深雪さん 豊島区長を表敬訪問

あと11日で長野冬期オリンピック。

その後に続いて、3月5日から開催されるもう一つの冬の祭典、第7回長野冬期パラリンピックに出場する、豊島区在住のクロスカントリー選手 小林深雪さん (24)が、27日、豊島区役所を訪れ、区長を表敬訪問した。

小林さんは、長野県小谷(おたり)村出身。アルペンスキーは、小学校に入る前から続けていたが、クロスカントリーを本格的に始めたのは、2年前から。

'96年'97年ジャパンパラリンピックのクロスカントリー 5キロフリーで連続優勝と、伸び盛りの選手だ。

スキー以外にも、高2・高3の時、長野県の身体障害者スポーツ大会に参加。陸上の100m走・400m走で連続優勝、障害者向けのフロアバレーボールで、盲学校の中3～高3まで参加し、北信越大会で4年連続優勝するなど、スポーツ全般を得意としている。

大学卒業後は、都内の老人ホームで、リハビリ関係の仕事に就いている。「やりがいがあります」と、仕事にもスポーツにも、意欲的に取り組む努力家だ。

小林さんは、今回のパラリンピックで、3月6日(金)のバイアスロン、8日(日)のクラシカル・5km、10日(火)のフリー・5km、14日(土)のクラシカル・15kmの4種目に出場する。

区長との懇談では、「バイアスロンでは、10m離れた直径3cmの標的の位置を、音で確かめます」といった競技種目の話に花が咲いた。

29日からは、スイスで開催されるワールドカップにも参加する小林さん。「今回は、世界の高いレベルの人達と、競うだけで精一杯です。」と謙遜していたが、区長から、「ぜひ、頑張ってください」と激励を受けていた。

お問い合わせ：広報課